

2022 年度「自立援助ホーム支援助成」事業実施報告書

団体名 自立援助ホームまつぼっくり

代表者・役職名 氏名 ホーム長 福田天平

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 申請事業の名称

スーパーバイザー(SV)の設置

2. 自立援助ホームの概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

社会福祉法人松葉の園によって、さらなる事業の拡大、青少年たちへの幅広い支援を目指すべく、2007年10月1日より、自立援助ホームまつぼっくりは東京都西東京市に開設されました。

松葉の園の他の事業(児童養護施設、ショートステイ事業、保育所、放課後対策事業、子育て支援サービス)は板橋区にて運営されています。

今まで関わった青少年は40名になります。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

自立援助ホームは少人数の職員で運営していて、職員の育成に対して力を注ぐ余裕が無く、ノウハウもないことが多い。職員が成長し継続して働ける環境を作ることが、利用者にとっても有意義なことだと考える。

職員の悩みを話す場を作ること、ケース会議の進行など客観的に行ってもらえる。

新人職員の入職を機に、職員の育成が図り、長期的に働ける職場環境を整える必要がある。障がい特性を持った利用者が増えてきていることから、支援により専門性が求められるようになってきたため。

2年前にも申請し有意義に使わせていただいた。その後、申請はしていないが継続して昨年も事業を継続していた。来年度も利用したく申請する。また、来年度から職員が大きく入れ替わることもあり、事業の必要性が高い。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

月に1回以上のスーパービジョンを1年間継続して受ける。

ホーム長のみスーパービジョンを受ける場合や、職員会議に参加してもらいアドバイスを貰う場合もある。職員の育成方法やホームのあり方、利用者の支援方法などについて学んでいく。また、その時のニーズに合わせて質問していき、スーパービジョンを受ける。

ケース会議や第三者からの助言をしてもらう。ケース会議では客観的な進行をしてもらう。スーパーバイザーの助言の元、ホーム長と職員とで目標設定や振り返りを行う。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

ケース検討、自立の定義、ホームの方針について話し合うなど、様々なテーマで話し合うことが出来た。下半期は職員が持ち回りで話し合いたいテーマを出すことで、職員のモヤモヤが晴れたり、他の職員の関心や考え方を知る機会にもなった。また、卒寮生がお世話になっている職場の方々も呼んでケース検討もすることが出来て、理解や連携が深まった。普段の職員会議では出ない観点からの意見をホームに投げかけてくれることで職員の対応に幅が出た。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

今後も引き続きスーパーバイザーの導入は有意義と考えている。しかしスーパーバイザーを1人に固定するのではなく、テーマによっては専門性を持っている方を交えて話をする機会があっても良いと感じた。心理士や弁護士なども呼べる体制づくりを来年度は目指していきたい。

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。



SV 中の様子